

【2026 ワールドカップ・バクサー大会 2日目】

大会2日目を迎え、個人・団体ともに総合後半種目が行われた。シリーズ3戦目となる本大会において、日本チームはこれまでの連戦で得た経験を踏まえ、内容を整理した上で試合に臨んだ。団体は継続して試合を重ねている中での経験を活かし、個人については本大会の試合を通して課題の把握と実施精度の向上を図ることを目的とした。

【個人：岡田華英】 個人総合 60位

《3種目目：フープ》

得点：22.600 (D 9.30 / A 6.95 / E 6.35)

本種目においても強い緊張が見られたが、一つひとつの動きを丁寧に実施することを意識して試技に臨んだ。前日と比較して落ち着いた入りはできたものの、前半のリスクにおいてタイミングのずれから落下が発生した。その後、ステップにおいて一時的な乱れが生じ、DAが抜ける形となったが、後半の技に影響を引きずることなく、予定していた内容を実施することができた点は評価できる。

一方で、リスクにおける投げ・回転・キャッチの一連の精度および再現性には課題が残り、特に試合環境下においても安定して同一のタイミングで実施できる力の向上が求められる。また、ミス発生直後における動きの整理や演技の連続性の確保についても、さらなる強化が必要である。

《4種目目：ボール》

得点：22.050 (DB 5.40 / DA 2.70 / A 7.25 / E 6.70)

高い緊張感が続く中で最終種目を迎えたが、各要素をクリアに実施することを意識して臨んだ。前半においては一部技を回避する判断も見られたが、丁寧に演技を進める姿勢が見られた。一方で、後半にかけて手具操作の不安定さが増し、終盤の足蹴りのリスクでは大きく右に逸れ、走って対応する形となった。

全体を通して安定性に欠ける内容となったが、初めてのワールドカップ出場を通じて、国際大会における環境や試合の流れを経験できたことは大きな収穫である。

本大会においては、事前に十分な準備を重ねていたものの、想定以上の緊張がパフォーマンスに影響した点が大きな要因として挙げられる。国内では同様の状況下でも実力を発揮できる選手であることから、今後は環境に左右されることなく「通常通り」の演技を実施できるよう、メンタル面の強化が求められる。

加えて、自身の強みを明確にし、身体難度の強化、並びに動きのバリエーションを拡充することで演技に変化と説得力を持たせることも、今後の課題である。

【団体】 団体総合 9 位

《2 種目目：フープ 3 クラブ 2》

得点：25.000 (DB 5.30 / DA 6.60 / A 7.40 / E 5.70)

本日の演技では、冒頭の CR において 1 名がクラブを押さえ切れず落下が発生した。その後は他の選手が影響を受けることなく演技を継続し、ミスをも最小限に抑える対応が見られた点は評価できるが、作品としてミスなく演技をまとめきるには至らなかった。

演技全体としては、CR における価値抜けおよび回転不足による減点が複数見られたほか、DB においても交換の受けの価値を取りきれない場面や、フェットターンを成立させきれない（同脚の角度低下）場面があり、得点の伸びを欠く要因となった。バランスについては前種目と比較して実施精度の向上が見られたものの、持ち点自体の低さに加え、全体としての実施精度は十分とは言えず、引き続き課題が残る内容であった。

また、演技全体の調和や動線、難度を含む動きの質といった日本として強みとしてきた要素が、技の実施に意識が偏る中で低下してしまった点は大きな課題である。技や動きのクリアさやパワーが不足すると、ミスが少ない場合であっても得点の向上にはつながらない。

各国が連戦を通じて演技の質を高めている中、日本チームにおいても現状にとどまることなく、技術面・表現面の双方においてさらなる質の向上が求められる。今後は、ミスの有無に加え、演技そのものの完成度向上に重点を置き、継続的な改善を図っていきたい。

明日の種目別には 2 種目ともに出場する。大会を通じてさらなるレベルアップを図るため、最後まで自分たちと向き合い、挑戦を続けていく。

〈出場選手〉

田口久乃

西本愛実

花村夏実

田中友菜

三好初音

results.smartscoring.com